

員となった。また、10日には高校生向け、11日には一般向けの「能ワークショップ」が同ソサエティで行われ、出演者らが舞と謡、また楽器演奏を指導した。

グラントが日本の政府高官に、「日本は能を保存すべく、努力しなければならぬ」と述べたというのが1879年。600年もの歴史を持つ能と狂言は近年、国内外で高い評価を得ており、2001年にユネスコの無形遺産の一つに選ばれた。



ジャパン・ソサエティでは、昨年12月に野村万作ら野村家3世代による狂言、今年3月には本公演に先駆けて能楽協会の重鎮たちを招いての公演「能と狂言の夕べ」が催されている。

(写真右) 舞台一面を蜘蛛の糸が覆い観客をアッとさせた「土蜘蛛」。土蜘蛛に梅若六郎、独武者に福王茂十郎(左) 獅子舞(梅若六郎)と子方の愛らしい舞が見どころの仇討ち物語「望月」

### 宮本亜門演出の「太平洋序曲」公開中 評価は？ 「素晴らしい！でも分かりづらい？」

宮本亜門演出の「太平洋序曲」(Pacific Overture)が12月2日より上演されている。コシノ・ジュンコのモダンな黒服を着たダンサーが舞台を所狭しと踊り、歌い、観客の目を引いた。松井のみの舞台演出も舞台周りに水を配するなど工夫している。シンガーの音量不足を感じることもあるが、ジョークも楽しくおむね成功だ。



宮本亜門は「自分の舞台に100パーセント満足したことはない。後にどんな評価が出るかは、僕の問題ではない。この難しい作品をジョーン・ワイドマンとともに作ることができて満足」と語った。観客の反応は、アメリカ人は「素晴らしい！でも分かりづらい」という声から、「日本人がプロードウェイに進出しただけですごい」「2002年のリンカーンセンターでやった日本語版の方が良かった」という日本人の反応までさまざま。だが、プロードウェイにて日本人が初演出したこの舞台を見ることは、私たちにとって良い記念になることは間違いない。劇場の1階席には、小さなテーブルが配置され、

優雅に飲み物を飲みながら楽しむ。 「今度は僕が作ったオリジナルで勝負したい」と語った宮本。ぜひトニー賞を狙ってほしい。

主演のB・D・ウォン 井上室内アンサンブル(井上和子主宰)が12月1日、尺八の世界的演奏家、倉橋義雄(写真)を招き、120丁目にあるインターチャーチ・センターで「正午のコンサート」を開いた。



オーブニングは倉橋の尺八独奏で、尺八本曲「鶴の巣籠り」を、続いて倉橋の尺八と大島文子のクラリネットのためのデービッド・ロープ作曲「残雲」を演奏。最後は打楽器にマシュー・

### 写真のオークションで16万ドル

#### カンボジアの小児病院の資金に

マンハッタン18丁目のメトロポリタン・パビリオンで12月7日、カンボジアにあるアンコール小児病院の資金集めのための写真オークションが行われ、写真愛好家150人が参加した。

井津建郎が主催したもので、今回で8回目。同病院を支援するため、日米の写真家や写真専門の画廊が写真134点を寄贈し、うち38点が展示作品に記入する形のサイレント競売、残り96点が会場で挙手するオークションにかけられた。

熱気に満ちた競売の結果、約16万ドルが売り上げられ、すべてが病院の運営費にあてられる。競売で今回最高値を付けたのはクスコの子供を写したアービング・ペンの作品で1万3000ドルだった。

日本人の最高は杉本博司の十三間堂の仏像を撮った作品で9000ドル。病院はアンコール・ワットの

のあるシエム・リエツプの町にあり、カンボジア中からやってくる患者が連日300人

を越えており、運営費は慢性的な赤字となつている。資金集めに苦勞を続けている写真家の

本年度JAA名誉賞は医師の下村誠一氏に贈られた。下村氏は長年NY市内で心臓内科医として活躍し92年引退。現在は日系人会の副会長として無料医療相談、JAAニューイスの編集などに携わっている。

フルコース・ディナーの後には、JAAコーラスによる合唱で「ホワイト・クリスマス」「サイレント・ナイト」などが披露され、その後、ジョージ・ジー楽団と歌手・ティナ・ファブリアークの演奏と歌で、着飾った男女がスイングやマンボのステップを奏し

日本では人気のピアニスト・フジ子・ヘミングが、カーネギーホールで11月30日、リサイタルを行った。今回3度目のヨーロッパ/アメリカツアーで、05年2月、3月には日本でのソロツアーを予定している。

リストとショパンの名曲を中心とした、ヘミングならではのプログラム。「マズルカ第49番」短調作品68の2。

ヘミングは、日本人ピアニストの母とスウェーデン人の父

との間にベルリンで生まれる。5歳より東京で育ち30歳でベルリンに留学後、ピアニストとしてのキャリアを順調に積みつつあった矢先、風邪が原因で2年間聴覚を失い、その後約30年間音楽界から影を潜めた。現在では左の聴覚のみ40%が回復。98年、母校の東京芸術大学でリサイタルを開いたのを機に再起し、注目を集める。

99年2月には、NHKのドキュメント番組「フジ子、あるピアニストの軌跡」が放映され大反響を巻き起こし、同年のデビューアル